

◇イベント報告◇

IFRS 財団バーチャル・カンファランス報告

ASBJ 専門研究員 花澤 徳裕
ASBJ 専門研究員 光野 聡一郎

1. はじめに

国際会計基準審議会（IASB）は、利害関係者向けの会議である IFRS 財団カンファランスを毎年 1 回開催している。今年のカンファランスは、6 月 23 日及び 24 日の 2 日間にわたって開催され、2019 年以来の対面方式及びオンラインのハイブリッド形式により行われた。1 日目はサステナビリティに関する事項、2 日目は会計に関する事項を中心に議論が行われた。参加者は 55 カ国から 350 名を超え、企業会計基準委員会（ASBJ）からは筆者 2 名がオンラインで参加した。

2. 全体のスケジュール

今回の会議の議題は、次のとおりであった。

	議 題	担 当
2022 年 6 月 23 日		
1	開会の挨拶：IFRS 財団評議員会からのメッセージ	Erkki Liikanen 氏（IFRS 財団評議員会）
2	IOSCO 議長による基調講演	Ashley Alder 氏（証券監督者国際機構（ISOCO））
3	ISSB 議長による基調講演	Emmanuel Faber 氏（ISSB）
4	パネル・ディスカッション：IFRS 財団のサステナビリティ報告のイントロダクション	司会： Sue Lloyd 氏（ISSB） パネリスト： Andreas Barckow 氏（IASB）、 Emmanuel Faber 氏（ISSB）
5	ワークショップ：IFRS サステナビリティ開示	Sue Lloyd 氏（ISSB）、 Ravi Abeywardana 氏（ISSB）

イベント情報

	議 題	担 当
6	パネル・ディスカッション：テクノロジーが投資プロセスに与える影響、並びに投資家による財務及び ESG 関連データの利用方法	司会： Ann Tarca 氏 (IASB) パネリスト： Zach Gast 氏 (IASB)、 Ridhima Nayyar 氏 (RioCan REIT ¹)、 Elena Philipova 氏 (ロンドン証券取引所)、 Mohini Singh 氏 (PwC)、 Steven Young 氏 (ランカスター大学)
2022年6月24日		
7	IASB 議長による基調講演	Andreas Barckow 氏 (IASB)
8	IASB アップデート	Andreas Barckow 氏 (IASB)、 Nili Shah 氏 (IASB)
9	Q&A を含む選択方式のセッション (1 回目) ● IFRS 会計基準の一貫した適用：最新の情報 ● 金融商品アップデート ● 基本財務諸表 ● 気候関連事項が IFRS 基準を適用して作成された財務諸表に与える影響	IASB 理事、 IASB スタッフ、 Mark Babington 氏 (英国財務報告評議会 (FRC)) ほか ²
	Q&A を含む選択方式のセッション (2 回目) ● IFRS 会計基準の一貫した適用：最新の情報 ● 金融商品アップデート ● 基本財務諸表	
10	IASB 理事及びスタッフとの Q&A セッション	Mary Tokar 氏 (IASB)、 Andreas Barckow 氏 (IASB)、 Nili Shah 氏 (IASB)

3. 主な議事概要

(1) ISSB 議長による基調講演

¹ カナダを拠点とする不動産投資信託

² 気候関連事項が IFRS 基準を適用して作成された財務諸表に与える影響のセッションのみ



ISSB 議長による基調講演に先立ち、IFRS 財団評議員会の Erkki Liikanen 氏、IOSCO の Ashley Alder 氏から、2021 年 11 月に IFRS 財団のもとに国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）が設立されたことを受けて、ISSB 設立時と 2001 年の IASB 設立時の状況との類似性への考察や IOSCO が ISSB 設立に果たした役割の説明などが行われた。

そうした流れを受けて、Emmanuel Faber 氏は、ISSB は設立以来、重要な進歩を遂げていることを強調した上で、足許の具体的な取組状況として、2022 年 3 月に 2 つの IFRS サステナビリティ開示基準案を公表したこと、ISSB のボードメンバーの選任を進めており理事会は定足数に達しており、残りのメンバーも順次選任予定であること、ISSB の初回会合を 7 月中旬に開催予定であることなどを説明した。

(2) IASB 議長、ISSB 議長・副議長によるパネル・ディスカッション



イベント情報

Sue Lloyd 氏が司会、Andreas Barckow 氏及び Emmanuel Faber 氏がパネリストを務める形で、IFRS サステナビリティ報告をテーマとしたパネル・ディスカッションが行われた。パネルでの議論や参加者からパネリストへの質問では、IASB と ISSB のつながり（connectivity）が重要な論点として取り上げられていたが、両パネリストとも、財務報告とサステナビリティ報告との間にギャップや不整合が生じるリスクを回避するためには、IASB、ISSB の両組織のつながりが重要であることについては認識が一致していた。

(3) IASB 議長による基調講演



Andreas Barckow 氏が IASB の第 3 次アジェンダ協議に基づく作業計画に関する決定事項についてスピーチを行った。最初に、利害関係者からの意見を踏まえ、IASB は現在の作業計画を優先すること、すなわち、新たなプロジェクトの前に進行中のプロジェクトの完了を優先すると述べた。次に、IASB のリソースのキャパシティとバランスを踏まえ、新たに 3 つのプロジェクト（無形資産、キャッシュ・フロー計算書、及び、財務諸表における気候関連リスクに関する狭い範囲のメンテナンス）を作業計画に追加したことを述べた。最後に IASB と ISSB のコネクティビティについて言及し、投資家のニーズに応えるため、両者の要求事項に基づく情報がつながりのある（connected）情報をもたらすよう、両者のコミュニケーションと協調が重要であるとし、無形資産の基準の見直しと財務諸表における気候関連リスクに関するプロジェクトが、そのような両者のコミュニケーションと協調が求められると述べた。

以 上